

福岡市新世代環境都市ビジョン 将来イメージ 概要版

福岡市の持つ、強み・弱み

【環境】

- コンパクトな都市であり、都市(建築物・交通)の低炭素化に有利な都市
- 地域独自の風車技術保有
- 都市と自然が近接し、周辺地域を含め、生物多様性からの恵みを受けている
- 沿岸都市、水資源が少ないなど、将来的に地球温暖化の影響に対して脆弱性を有する都市
- 大陸に近く黄砂など大陸の環境悪化の影響を受けやすい都市

【社会】

- すみやすいまちとして、市民からも世界からも評価が高く、実の伴う都市ブランド力を持つ都市
- 若い人が多く、活力がある都市
- 多数の大学を抱え、人的資源を潜在的には持つが流出してしまう都市

【経済】

- 九州の経済の中心地であるが、全国から見ると製造業が少なく支店経済都市
- アジアに近接し、観光客等を直接誘致しやすいが、一方で成長著しいアジア他都市に人・モノ・カネを奪われる可能性も
- 長きにわたり国際化を目指しているが、他大都市と比較すると進展は遅い

将来にむけた社会的要請や取組状況

【環境】

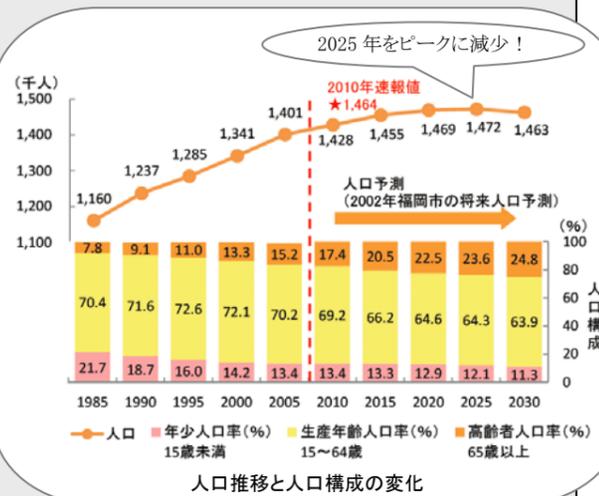
- 2050年 GHG ガス 80%削減のための革新的な取組が必要
- ソーラーアイランド九州の実現や水素戦略など、エネルギー分野での九州の重要度向上をめざしている
- 震災後の都市・エネルギー利用の安全・安心性向上へのニーズの高まり

【社会】

- 超高齢社会に対応したインフラ、サービス、社会システムの整備が必要
- 大学での人材の国際化や、留学生の九州での就職など、国際化に対応した人的資源の獲得が求められている

【経済】

- アジアから人・モノ・カネ・情報の流れを倍増させ、九州地域への外国人入国者倍増以上を目指すなど、アジアの成長を九州の経済成長の原動力へ



環境都市ビジョンの方向性

- “すみやすい都市ふくおか”の現在の姿の下に隠された危機を把握し、都市としての成長力がある今のうちに、長期的・先行的な施策・対応策を講じることが重要
- 環境を“守る・改善する”といった課題対応型の環境政策ではなく、環境を地域社会・地域経済の“強み”と捉え、都市の成長戦略に資する環境都市ビジョンが必要
- 環境をよくすることにより、経済も成長し、高齢化社会にも対応する戦略的な環境政策を打ち出した、『環境都市ビジョン』が実現することにより、アジアのリーダー都市かつ、地球環境に貢献するグローバルな都市となる

環境都市ビジョンにおける 2050年の社会・経済の姿(将来イメージの前提条件)

【人口】

- ・若者等の定住、アジアからの人材集積により総人口は減少傾向緩和・出生率向上
- ・生産年齢人口の減少傾向緩和

【社会】

- ・アクティブエイジングの取組進展
- ・グローバル教育が進展、アジア言語の習得が浸透
- ・多文化共生・世代間交流のできる地域拠点が形成

【経済】

- ・アジアとの経済圏を形成、アジア企業の日本進出拠点、日本企業のアジア進出拠点
- ・先端成長産業拠点都市
- ・雇用環境が改善し理系学生や留学生の就職環境が充実

【国際・まちづくり】

- ・アジアとの大交流都市
- ・環境技術、医療など知識層がアジアから留学、就業、定住進む
- ・進化したコンパクトシティ(都心に居住人口が増加、郊外の人口はやや減少)

環境都市ビジョン コンセプト

人と自然とアジアとともに、ときを超えて輝く地球によかまち・ふくおか

環境・エネルギー技術のショーケース都市として発展するまち・ふくおか

- ◇ 原発への依存度低減社会の下、省エネ技術により、エネルギー使用量は大幅減少。太陽光・風力・水素エネルギーを中心に、再生可能エネルギーを大幅導入
- ◇ 自立・分散型のエネルギーシステムを有し、安全・安心の観点から世界に評価され、アジアにおける環境・エネルギー技術の拠点となるショーケース都市
- ◇ 子どもから高齢者、観光客、誰もが自由に多様な手段で、カーボンゼロの移動ができるまち

生物多様性からの恵みを活力として成長する持続可能なまち・ふくおか

- ◇ 都市の魅力を支える生物多様性の重要性を認識し、地産地消を進め、その恵みである豊かな食文化を守り、発展を続けるまち
- ◇ 身近なみどり・自然とふれあえる自然資源へのアクセス性の良さを都市の魅力として発信し、まちを活性化
- ◇ 市民、事業者、行政等の多様な主体により、生物多様性の恵みによって育まれた福岡市固有の文化を継承・発展させ、地域への愛着と誇りの心によって絆をつくるまち

“大事に使う・皆で使う”スマート消費者のすむ循環のまち・ふくおか

- ◇ 移住者も含めてすべての市民に“ものを大切に”“皆で使う”精神が根付き、ごみの排出抑制、リサイクルが自然にできる地域社会
- ◇ ごみは、再資源化・活用され、地域経済の元気の源になるまち

いつまでも住み続けたいと、誰もが思う安全・安心、快適なまち・ふくおか

- ◇ 市民の生活環境に関わる課題はほぼ克服され、次世代まで住み続けたいと市民が思う安全・安心で、快適なまち
- ◇ 気候変動への適応に先行的に取り組む、長期的展望に立った快適なまちづくりが浸透した地域社会

環境を守り社会・経済を発展させるアジアの人材を育てるまち・ふくおか

- ◇ アジアの環境分野の拠点都市となり、環境分野において最先端技術・知識を持つ人材が集まるまち
- ◇ アジアにおける環境技術のショーケース地域となり、環境技術を資源に産業・観光を興す人材がうまれるまち
- ◇ リサイクルビジネスでアジアに羽ばたく人材が育つまち
- ◇ 黄砂などの越境大気汚染の発生抑制のための技術移転・植林事業や「福岡方式」などの環境技術の活用により、国際貢献を推進

環境局職員提言チームメンバー

環境政策課企画係長	政次 貴光
施設計画係長	檀浦 詠介
広報啓発係長	中村 義治
温暖化対策課計画調整係長	松島 清隆
環境調整課生物多様性戦略推進係長	曾根崎 智幸
循環型社会推進部計画課計画係長	笠井 浩一
施設部管理課管理係長	安達 昌輝
保健環境研究所環境科学課主任研究員（環境化学担当）	中牟田 啓子